

ほうでえ～

ありゃ～のう

周防大島町の話題

宮本常一 生誕 110 周年シンポジウムを開催

周防大島町出身の民俗学者、宮本常一（1907・1981）の生誕110周年を記念したシンポジウムが8月1日、東和総合センターで開催されました。

午前の部では周防大島郷土大学の特別講義として、シンガーソングライターの寺尾紗穂さんによるわらべ歌コンサートと、民俗学者の赤坂憲雄さんとの対談があり、お昼には食文化の体験会として、地元で郷土食を研究するグループによりかいもちなどのお接待がありました。

午後の部では、小中学生による地域学習の発表が行われ、宮本が故郷を撮影した写真を題材に、人々の暮らしの様子や現在の様子などを研究した成果が披露されました。続いて「宮本常一の現在地」と題してパネルディスカッションが行われ、龍谷大学名誉教授の須藤護さん、赤坂憲雄さん、東京文化財研究所の今石みぎわさんをパネリストに、コメンテーターには周防大島郷土大学の新山玄雄さんをお迎えし、中国新聞社論説主幹の佐田尾信作さんのコーディネートで、宮本常一の現代的な意義について討議し、宮本が描く地域のつながりをもとにした共同の営みの大切さが話し合われました。当日は町内外から約260人が参加され、町外から参加した女性は「話を聞いて力をもらった。地元での文化活動の糧になる」と話していました。



▲パネルディスカッションの様子



▲小学生の発表の様子

日見岩戸神舞 本神楽で6時間超の舞



▲神舞のクライマックス「天の岩戸開きの舞」

町の無形文化財に指定されている「日見岩戸神舞」が7月30日、志佐の新宮神社で奉納されました。

今年「十六の舞」すべてを舞う、4年に1度の本神楽の年にあたり、朝11時から始まった舞台は夕方5時過ぎにまでおよびました。

神舞を伝承しているのは日見岩戸神舞保存会の皆さんで、小学生から大人まで33名が所属。この日は大変な暑さとなりましたが、烏帽子に直垂（相撲の行司のような装い）の衣装を着たり、鬼などに扮するなどして笛や太鼓の拍子に合わせ、伝統の舞を披露されました。

会場には町外からも多くの人が詰めかけ、伝統の舞を熱心に見入っていました。

「天の岩戸開きの舞」は日見、横見の秋祭り披露される予定です。